



## 農事組合法人会田共同養鶏組合 内閣総理大臣賞受賞

本年10月19日、農林水産祭中央審査委員会が開催され、平成28年度（第55回）農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者の決定・発表が行われ、農事組合法人会田共同養鶏組合様（長野県松本市）が畜産部門において内閣総理大臣賞を受賞されました。農事組合法人会田共同養鶏組合様、おめでとうございます。

これは、平成27年11月13日付け日鶏協速報でもお知らせした通り、当協会が推薦した同組合様が、平成27年全国優良畜産経営管理技術発表会（主催：中央畜産会、後援：農林水産省、地方競馬全国協会）において、最優秀賞・農林水産大臣賞を授与され、第55回農林水産祭での天皇賞候補となったことを受けての受賞です。

農林水産祭の天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（平成27年8月～平成28年7月）の農林水産祭の参加表彰行事（296件）において、農林水産大臣賞を受賞した509点の中から決定されたものです。各賞は、農産部門、園芸部門、畜産部門、蚕糸・地域特産部門、林産部門、水産部門、むらづくり部門の7部門に授与されます。

なお、表彰は、勤労感謝の日の11月23日（水曜日）11時40分から明治神宮会館で開催される農林水産祭式典において行われます。

受賞理由概要における受賞者の特色として、下記の事項が挙げられています。

### （1）配合飼料工場の設置及び飼料用米の利活用

昭和51年に飼料工場を建設し、農場で使用する飼料を製造。飼料用米倉庫や貯蔵タンクを設置し、年間約1,700トンを与与するなど、飼料用米を積極的に活用。



## (2) アニマルウェルフェアを目指した平飼い及び衛生管理の徹底

アニマルウェルフェア（快適性に配慮した家畜の飼養管理）を目指し全飼養羽数の3割を平飼いで飼養し、生産された鶏卵を独自ブランド化。平成24年に農場 HACCP 認証を取得し、サルモネラ対策を中心に衛生管理の徹底と質の向上・維持。

## (3) 6次産業化

敷地内に鶏肉加工場及び直売所を設置し、自場産の鶏を用いた鶏肉加工品の生産、直売所での鶏卵及び鶏肉加工品の販売。

## (4) 女性の活躍

理事会を構成する役員4名のうち半数が女性であり、全従業員に占める女性比率は45%（パート従業員含む。）と、女性の活躍・登用に前向きな経営を展開。

## 6 農事組合法人 会田共同養鶏組合



農事組合法人会田共同養鶏組合の概要

名称：農事組合法人 会田共同養鶏組合

会長理事：中島 学 氏

所在地：長野県松本市

設立：昭和38年、

飼養羽数：21万羽



## シンガポール向け鶏卵等の携帯品（おみやげ等）輸出について



おみやげたまごポスター

これまで、シンガポール向けに輸出される食用卵について、商業用貨物で輸出される場合の条件を両国で取り決めていたところでした。

今般、農林水産省は、シンガポール政府当局（シンガポール農食品・畜産庁（AVA））と協議を行い、日本産の生鮮殻付鶏卵（以下「鶏卵」という。）を個人消費用携帯品（おみやげ等）として輸出するための簡易証明書様式について合意しました。平成28年10月1日から、30個以内かつ個人消費用であって、あらかじめ簡易証明書が添付されている鶏卵については、日本国内空港売店等で購入後、空港等に所在する動物検疫所の検疫手続なく、そのままシンガポールに持って行くことが可能となります。

また、日本国内で市販されている鶏卵についても、表示等で日本産であることが確認できる場合には、空港等に所在する動物検疫所において簡易証明書の交付を受けることにより、携帯品としてシンガポールに持って行くことが可能となります。

なおこれを受け、中部国際空港では10月25日から、シンガポール向け「おみやげたまご」の取扱いが開始されました！！

### <シンガポール向け鶏卵の主な携帯品輸出条件>

- シンガポールへの持ち込み量が一人当たり30個以内であること
- 日本国内で市販されており、個人消費用であること
- 日本産であり、日本国内で市販されているものであること  
（※日本国内で重要な家畜伝染病（高病原性鳥インフルエンザ等）が発生した場合、証明書の発行は停止されます。）

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/160930.html>

[http://www.nikkei.com/article/DGXLASFS03H34\\_T01C16A0PP8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASFS03H34_T01C16A0PP8000/)

<URLをクリックすると農林水産省のホームページにアクセスします>



## 高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の強化について

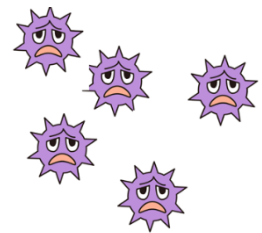
高病原性鳥インフルエンザ（AI）については、近隣諸国の発生状況等から我が国へのAIウイルスの進入するリスクは依然として高い状況にあります。こうした中、北方からAIウイルスを伝播する可能性のある渡り鳥の本格的な飛来シーズンを迎えるにあたり、農林水産省から「[平成28年度における高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の強化について](#)」（平成28年9月23日付け28消安第2664号農林水産省消費・安全局長通知）が発出され、本協会あてに、家畜防疫の重要性を十分に理解の上、本会会員等に対し通知内容を周知するとともに、都道府県の家畜防疫員による飼養衛生管理の確認のための立入検査、定点モニタリング及び強化モニタリングの検査対象農場の選定等に協力の依頼がありました。大切な鳥をAIなどの病気から守るには日頃から農場の衛生対策を徹底することが極めて重要です。各養鶏農家におかれては、今シーズンも昨年以上に農場防疫体制を維持・強化し、AIの発生に備えて頂くようお願いします。なお、この通知の主要な内容は以下のとおりです。＜上記の赤字部分をクリックすると農林水産省ホームページの当該通知にアクセスします。＞

### 1. 発生予防対策

- (1) 家きんの飼養農場における飼養衛生管理の確認及び指導の徹底
- (2) 野鳥、ネズミ等の野生動物対策
- (3) 野鳥のサーベイランスの実施

### 2. まん延防止対策

- (1) 早期通報
- (2) 的確な初動体制の徹底及び連絡体制
- (3) AIの発生に対する必要な人員及び防疫資材等の確保
- (4) 低病原性鳥インフルエンザの監視体制の強化



なお、本協会では、AIが発生した生産者に対して、国の補償、家畜防疫互助基金支援事業の補償に加えて経営再建を支援する制度として、本協会会員を対象に「鳥インフルエンザ経営再建保険」を民間の損害保険会社の協力を得て運営しております。鳥インフルエンザ経営再建保険は、今年12月頃に募集案内を行う予定にしておりますので、会員各位におかれましては防疫対策の強化と併せてAIの万一の発生に備えインフルエンザ経営再建保険への加入をご検討いただきますようお願いいたします。



## 薬剤耐性行動計画の周知と動物用抗菌性物質製剤の慎重利用について

1. 2015年5月に、世界保健機関（WHO）が薬剤耐性に関する国際行動計画の採択を受け、わが国でも、本年4月に「薬剤耐性対策アクションプラン」が策定され、2016年から5年間に実施すべき対策がまとめられたところです。その中で、毎年11月を「薬剤耐性対策推進月間」と位置付けられ、薬剤耐性に関する知識や理解を深めるための国民的な運動が展開されることとなりました。

こうした状況を踏まえ、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長から本協会あて「[薬剤耐性対策行動計画の周知と動物用抗菌性物質製剤の慎重利用について](#)」（平成28年10月19日付け28消安第3049号）にて、会員に対して薬剤耐性対策が世界的な課題となっていることを周知するとともに、「慎重使用に関する基本的な考え方」に基づいた抗菌剤の慎重使用の徹底について、改めて指導いただくよう依頼がありました。会員各位におかれましては、薬剤耐性対策への重要性についてご理解いただくとともに、抗菌剤などの使用にあたっては「慎重使用に関する基本的な考え方」等に基づき、適切な使用の徹底、強化に努めていただきますようお願いいたします。

なお、アクションプラン、慎重使用に関する基本的な考え方等については、農林水産省のウェブサイト「[家畜に使用する抗菌性物質について](#)」に掲載してありますので、参照して下さい。

<赤字下線部クリックで通知及び該当ページが開きます>

2. アクションプランでは、薬剤耐性に係る全国的な普及啓発活動を推進するため、有識者・関係団体等と連携の下、「薬剤耐性対策推進国民啓発会議」を開催することとしており、本協会も同会議の関連団体として参加し、薬剤の適切な使用に向けた取組を促進することとしております。

畜産関係者の皆様へ

11月は薬剤耐性（AMR）対策推進月間です

～抗菌剤の慎重使用等対策を進め、消費者の信頼に応えましょう！～

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課

**薬剤耐性菌とは？**

薬剤耐性菌とは、「抗菌剤が効かない細菌」です。薬剤耐性菌は、抗菌剤の使い過ぎなどにより増加し、人や動物の治療が困難になります。

世界的に、薬剤耐性菌による感染症が増加しており、大きな懸念となっています。

そのため、昨年5月にWHOが国際行動計画を採択し、我が国でも、本年4月、今後5年間に取組むべき対策をまとめた行動計画（アクションプラン）が決定されました。

抗菌剤が効かなくても生存・増殖（薬剤耐性菌）

抗菌剤により死滅（感受性菌）

**畜産関係者が実施すべき対策は？**

生産者や獣医師をはじめとする畜産関係者には、薬剤耐性問題を理解し、「**抗菌剤の慎重使用**」を徹底すること等が求められています。具体的には、

- ① 飼養衛生管理の徹底やワクチンの使用により感染症を減らすことにより、抗菌剤の使用機会を減らすこと
- ② 抗菌剤の使用を貴に必要の場合に限定することが対策の基本となります。

**薬剤耐性問題と畜産との関わりは？**

抗菌剤は、畜産分野でも、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。

家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して、人の感染症の治療を困難にすることが懸念されています。

そのため、アクションプランでは、人の医療分野とともに、畜産分野において必要な取組が記載されています。

国産畜産物に対する消費者からの信頼に応えるため、また、家畜に対する抗菌剤の有効性を維持するためには、畜産関係者が一体となって対策に取り組む必要があります。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

詳細は、農林水産省HPに掲載しています。 [農林水産省 抗菌性物質](#) [検索](#)  
<https://www.maff.go.jp/ivouan/ikusu/yekuzi/koukinzai.html>

画像クリックでPDFが開きます



## 日経 Gooday 30+ 「卵1日1個はウソ? コレステロールの真実」



食欲の秋!! 暑さもやわらいで食べ物が美味しい季節になりました。そんな中、健康診断の結果がつつい気になる～! なんて人も多いのではないのでしょうか?

検診結果のなかでも、コレステロール値は引かかる人が多い項目で、近年急増しているんだとか。

コレステロールが多く含まれている食品第1位に挙げられるのが「鶏卵」。「卵は1日1個まで」を常識と考え摂取する量に気をつけている人もまだまだ多く見かけます。

10月3日に掲載された日経 Gooday 30+の「[卵1日1個はウソ? コレステロールの真実](#)」<下線部クリックでページが開きます>では、女子栄養大学栄養生理学研究室の上西一弘教授による

[コレステロールの目標量がなくなったワケ](#)  
[食事がコレステロール値に与える影響](#)

など卵とコレステロールの関係について分かりやすく解説していますので、ぜひお読みください。

## 来年は酉年

2016年も年末まであとわずか。。。そろそろ2017年のカレンダーを選ぶ時期となりました。来年は酉年です! 酉年にちなんだカレンダーを紹介します。

株式会社グリーティングライフが発行しているアニマル ダイカットカレンダーシリーズに厚紙をにわたりの形に型抜きした、かわいい卓上カレンダーが発売されています。月ごとにカラーが異なる鶏を、毎月差し替えて使います。なお、このカレンダーの収益の一部は動物たちの保護と飼い主捜し支援に活用されます。 価格 680円(税抜)





## 協会活動報告

(下線色付き部分はホームページに連結)

### 1. 各種事業についての報告

#### (1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

##### ① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846

##### ② 9月の標準取引価格 190.05 円/Kg

平成28年度補填基準価格 189 円/Kg

平成28年度安定基準価格 169 円/Kg

#### (2) 国産鶏卵普及拡大対策事



日鶏協ニュース9月号でも紹介した、**11月5日** **いいたまごの日**にちなんで「**親子オムライス教室**」のイベントを10月29日(土)に、埼玉県蕨市のスーパーマルエツのカルチャー教室「**いとぴあ**」において開催しました。

このイベントは本協会の『国産鶏卵に関する普及啓発事業』の目玉と言える催事で、子供たちだけで作ったオムライスを親子揃って食べることにより親子の絆を再確認していただけたらという思いをこめて、全国のスーパー等たまご売場で販促用に作成・配布した「オムライス・リーフレット」から応募いただいた方々の中から抽選で選ばれたご家族、13名の方々に参加していただきました。



イベントに参加した子供たちは、たまごタレント友加里さん実演によるふわふわオムライスの作り方を熱心に教わった後、管理栄養士で料理研究家の牧野直子さんと一緒に目を輝かせながら具材を切り、卵を焼いてと終始楽しそうにオムライスを作っている姿が印象的でした。





# 日鶏協ニュース

平成28年10月号  
一般社団法人 日本養鶏協会

参加者からは、「今日のオムライス、卵を3個も贅沢に使って幸せな気分」という感想も。

子供たちだけで作ったオムライスを親子一緒に楽しみながら「親子の絆」を深め、プレゼントの卵母(たまも)ちゃん着ぐるみキャップも大好評でイベントは幕を閉じました。



この日の模様は、11月4日(金)東京ガススタジオプラスジーギンザにおいて行われる、第7回「いいたまごの日プレス発表会」でも紹介する予定です。



## 2. 今後の予定

- |                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 11月 3日(木)～ 7日(月) | 香港「いいたまごの日」フェア               |
| 11月 4日(金)        | いいたまごの日プレス発表会                |
| 11月11日(金)        | 鶏卵規格取引研修会 (東京/馬事畜産会館)        |
| 12月 2日(金)        | 鶏卵規格取引研修会 (京都/リサーチパーク東地区1号館) |





# 日鶏協ニュース

平成28年10月号  
一般社団法人 日本養鶏協会

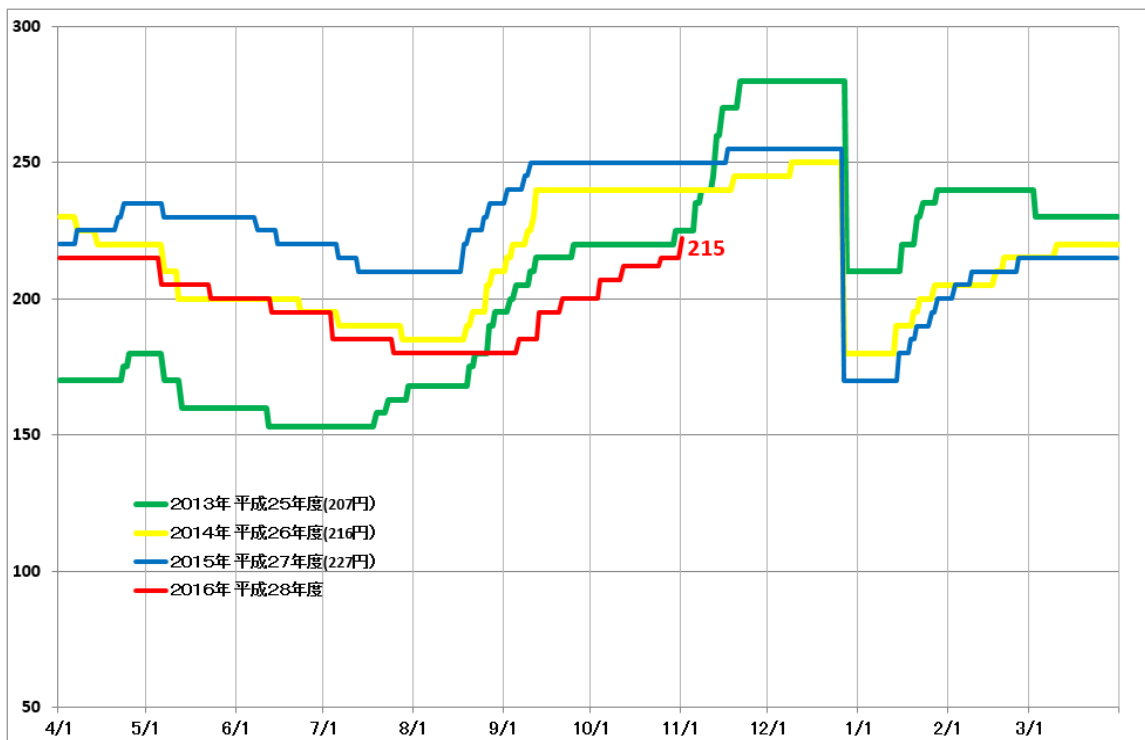
## 統計データ

### 【相場動向】 過去10年間の9月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成19年	166	170	170
平成20年	216	215	210
平成21年	188	190	180
平成22年	193	200	195
平成23年	183	190	185
平成24年	176	193	193
平成25年	211	225	220
平成26年	231	240	240
平成27年	247	250	250
平成28年	192	218	174
平均値	200	209	202

平成28年9月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は192円と先月より12円高い相場となりました。これは高騰した昨年の9月よりも55円の大幅安で、過去10年間の平均価格と比べても8円安となり4年ぶりに200円を下回った相場となっています。

### 【鶏卵相場推移 2013年～2016年 会計年度 東京全農Mサイズ 円/ Kg】



平成28年の鶏卵相場は、例年に比べて上昇が遅い展開が続いていましたが、9月から徐々に回復し10月末には、2013年並みの215円まで上昇しています。



## 【鶏卵関係主要計数】平成28年8月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	本年	前年
27年9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240
11月	8,518	104.7%	461	101.6%	842	99.8%	252	242
12月	9,070	103.0%	518	97.1%	850	96.7%	255	248
28年1月	8,317	97.8%	448	96.9%	833	108.9%	182	192
2月	8,604	104.0%	470	104.6%	845	103.2%	209	209
3月	9,238	99.7%	494	102.9%	865	101.6%	215	219
4月	8,779	104.4%	486	101.4%	890	106.1%	215	227
5月	9,398	104.6%	464	103.2%	889	103.8%	204	230
6月	9,228	101.6%	463	101.9%	867	108.0%	197	223
7月	8,532	96.6%	438	94.8%	864	105.7%	184	213
8月	8,471	112.9%	454	106.9%	811	100.8%	180	219
1年間小計	105,461	102.4%	5,627	100.8%	10,209	103.0%	216	224

- ・餌付羽数は、7月は前年を下回りましたが、8月は1年間の前年比で最大となる12.9%増となっており、年間でも2.4%増となっています。
- ・配合飼料出荷量は、年間ではほぼ前年比並みですが、7月落ち込んだ分を巻き返す値となっています。
- ・鶏卵家計消費量は、本年に入り増加傾向で推移しており、8月は前年を僅かに上回りました。年間では前年比3%増で推移しています。
- ・これらの統計からすると、供給サイドでの大きな落ち込みも無く、家計消費などの需要も堅調な展開となっています。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2016年11月2日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

